

つながり

紀南病院スローガン(22年12月～) みんな思いやる 心と心で 暖かい病院づくり



★たなばたコンサート

7月7日七夕の日に、恒例の七夕コンサートが開催されました。

まず紀南病院コーラス部が「カントリーロード」、「陽だまりの詩」など三曲披露されました。最後の曲「ビリーブ」は希望に満ちた歌詞とテンポの良い美しいメロディーで、コーラス部の美しいハーモニーとあいまってみんなに元気を与えてくれました。

次に当院脳神経外科の仲尾先生によるピアノ弾き語りが披露されました。曲はショパンの「ノクターン第二番」で情感溢れる演奏で観客を魅了しました。

最後に「御浜フラの会」の皆さんにより、ハワイアンの曲にのって南国の雰囲気たっぷりの音楽とステキな衣装で三曲のフラダンスが披露されました。

最後はみんなで「たなばたさま」を合唱し、七夕のタペを締めくくりました。



脳外科外来

■病院理念

優しくて、温かい、確かな医療を提供し、紀南の環境文化に根ざした地域連携の充実に努めます

■基本方針

1. サービス精神(KINAN)の徹底——(K)気持ちをこめて、(I)いつまでも、(N)納得のいく、(A)安心で安全な、(N)任務の遂行
2. 患者さんの権利を尊重し、わかりやすい説明を励行
3. 生活の質の向上(QOL:quality of life)を中心とした診療と援助
4. 行政や医師会と協同した地域医療の向上(救急医療・高齢者医療・健診・地域連携・福祉など)
5. 職員研修の強化と遠隔地医療教育の必須化
6. 職場環境の改善と健全な病院経営に基づく医療環境の提供



子どもの発熱に関する迷信!?

小児科 間宮範人

「高い熱が3日間続くと、最後にはうわ言を言って、そのあと脳に障害が残って意識が戻らなくなる。」…………これは私が幼少時に熱を出した時、看病してくれた祖母の言葉です。

非常にインパクトのある言葉で、今でも記憶に残っています。今回はスペースをお借りして、外来を受診される理由で最も多い発熱について、少しお話させていただきたいと思います。

最初に強調しておきますが、冒頭の言葉は医学的には完全に誤りです。しかし、同じような内容のことを心配されて質問を受ける機会は多くあります。海外での報告ですが、21%の保護者が発熱によって脳障害が生じ、14%は発熱が直接死因となると回答しています。¹⁾ 発熱に対する誤解は日本にも外国にも共通なのかもしれません。もちろん熱が出て、そのような経過を辿る病気も稀にあることは事実ですが、熱そのもので障害を受けるわけではありません。何日以上、あるいは何°C以上で危険とか一律の基準はありません。我々小児科医は熱だけではなく、その他の症状、例えば機嫌はいいか、食欲（あるいはミルクの飲み具合）がどうか等と総合的に判断していきます。

また最初の質問と並んでよく聞かれることに「風邪をひいたときにお風呂に入つてもいいですか？」という質問はよく受けます。 結論から言いますと、風邪をひいて、熱があってもいつも通り入浴してもらって構いません（ただし、極端に熱い温度のお湯や、湯ざめには気をつけてください）。一応、アンケート調査でも入浴によって風邪症状は悪化させず、実際に小児科医の88%は入浴を許可している、との報告も出ています。²⁾

ちなみに、なぜ発熱時に入浴を控えるようになったかですが（確かに、自分が子どもの頃も熱が出てお風呂に入った記憶はありません）、あくまで一説にすぎないと思うのですが、昔のお風呂の形態にあったとされています。昔は居間からお風呂に行くのに距離があったり、あるいは個人の家にお風呂がなく銭湯を利用していたと聞きます。この様な状況では確かに入浴自体には問題がないものの、お風呂に入る前後で身体が冷えて病気が悪化してしまう可能性があります。ところが現代の住居の形態では浴室と居間はすぐ近くにあると思いますし、銭湯を日々利用するようなこともないと思われます。ですので、風邪をひいて少々お熱があっても入浴しても大丈夫です。

1) Crocetti M,Moghbeli N,Serwint J. Fever phobia revisited:Have parental conceptions about fever changed in 20 years? Pediatrics 2001;107:1241-6.

2) Okayama M,Igarashi M,Ohno S,et al.Japanese pediatrician's judgement of the appropriateness of bathing for children with colds. Fam Pract 2000;17:334-6.





研修医だより



6月24日の夕刻、「紀南のタベ」と題して、研修医野口大介先生、渡邊拓弥先生による歌、ギター、サックスの生演奏のミニライブが開催されました。

もともと二人は学生時代にバンドを組んで活動していたそうです。学園祭やライブハウスなど、多くの観客の前で演奏した経験があります。今回は、彼らから「紀南での研修中に、音楽で何か元気を与えることができれば…。」という希望があり、特別に開催することとなりました。

演奏曲は、「酒と薔薇の日々」、「夜汽車」、「いい日旅立ち」などオリジナル曲からポップスまで様々で、最後は「サライ」

をみんなで合唱しました。

蒸し暑い中、さわやか風を吹き込んでくれた二人の演奏に、観客から温かい拍手が贈られました。

22年度中に当院に寄せられたご意見（入院生活アンケート分を除く）

<内容別件数>（全127件）

●設備・環境への要望	35 件	●診療内容・説明についてのご意見	5 件
●職員の接遇に関するご意見	21 件	●個人情報に関するご意見	4 件
●診療システムへの要望	20 件	●感謝・お礼の投書	37 件
●入院中の食事についてのご意見	5 件		

寄せられたご意見の一部（要旨）を紹介します。

『外来待合のイスで横になりたくても、肘掛けがあつて横になれない。』

▶一部のイスの肘掛けを撤去しました。

『入院中に氷枕使用時の枕への浸水対策を。』

▶氷枕カバーや防水シーツを利用することにしました。

『中待合で待っていると、診察室の声が聞こえてくる。』

▶可能な診療科は中待合を使用せず、一部の診療科では、音楽を流すなどで対応しております。

『入院中の親が、転倒の危険があるのに、一人でトイレに行こうとして不安です。』

▶ベッドから降りた時にナースコールが鳴る、コールマットを導入しました。

『4階病棟の洗濯機が一台しかない。』

▶「入院案内」パンフ等でお知らせしていますが、洗濯機・乾燥機が屋上に5台ずつございます。

『トイレをウォシュレットにしてほしい。』

▶特別室（個室）をウォシュレットにする予定です。

『ドックの胃カメラの際、医師からの声掛けをもっとして欲しかった。』

▶内科医師に周知しました。

『深夜の受診時に冷たい態度で応対する職員がいた。』

▶全職員に周知しました。

今後もより良い医療サービスを提供するよう、努めてまいります。

22年度 新宮市立医療センターとの「画像転送診断システム」報告

平成19年4月から実施している、新宮市立医療センターとの「脳関連疾患画像転送診断システム*」の22年度(22年4月～23年3月)の件数は、以下のとおりでした。

画像転送診断システムの22年度利用件数(脳疾患のみ)と患者さんの転帰

転帰	新宮医療センターへ搬送した件数	18 件
	搬送せず紀南病院で治療した件数	24 件
	それ以外の病院へ搬送した件数	1 件
22年度	総 件 数	43 件

* 脳関連疾患画像転送診断システム……
紀南病院へ受診された脳関連疾患の患者さんの頭部画像（CT・MRIなど）を新宮市立医療センターにケーブルテレビ回線で送り、医療センター脳外科医師に搬送の必要性や治療方針などを判断していただくシステム。



三重県医療救護班派遣(5月6日～12日)に参加して

当紀南病院から、今町看護師と中山医事課長補佐が震災救護に派遣されました。活動を振り返つてのコメントです。

手術室看護師：今町 視 紀

「初めに、今回紀南病院を代表して貴重な体験をさせていただき、また、出発前には沢山の職員の方々から声をかけていただき、本当にありがとうございました。

私たちは、三重県医療救護班として、岩手県陸前高田市・県立高田病院仮診療所の米崎コミュニティセンターで外来診療の援助を行いました。

陸前高田市には、海岸線に樹齢200年から300年の松の木が約7万本あり、高田松原と呼ばっていました。震災後は、そのうちの1本だけが残り、今は復興のシンボルとなっています。県立高田病院は、そこから1Kmほどの所にあります。建物は4階建てで、その4階まで津波に襲われ、患者、近隣住民、職員など約160名が、屋上で1夜を過ごした病院です。残念ながら、津波で7人の職員が亡くなり、病院自体は、再開の目途がたっていませんでした。

センターでは、電気は復旧していますが、水道は使用できず、トイレの排水や洗濯には川の水を利用しています。電話は衛星電話ですが、携帯電話も使用可能でした。

私たちが参加した時期は、災害サイクルでいうと慢性期にあたり、受診患者は主に高血圧などの慢性疾患が半数を占め、残りは風邪や下痢、粉塵による呼吸器症状、瓦礫撤去作業が原因の外傷処置、小児科、心の病などでした。また、心不全や脳血管障害の疑いで大船渡病院に紹介した例もありました。

今回の東日本大震災以来、「私には、何ができるのか」を自問しておりましたところ、被災地支援中に入居者180人、被災者100人を受け入れている老人施設の巡回診療に同行する機会を得ました。そこでは、許容をはるかに超える業務を必死でされているスタッフの姿に接し、「今抱えている問題や私たちにできる支援はないですか?」と尋ねると、「十分してもらっています。恵まれている方です。こんな遠い所まで来てくださって、本当にうれしく思います。」と笑顔で話され、その心の強さに深く感銘を受けました。そこで、今、私にできる精一杯の事をさせていただこうと取り組んだ結果、交換日が過ぎている胃ろうチューブについて、物品と交換日の段取りを行うことや巡回のメンバーが替わっても、支援の輪が途切れないように申し送りノートを作成することなどを同行医師と共にに行うことができました。

今、メディアでは「このお店が復興しました」「頑張っています」と、復興に向けて進んでいる報道もありますが、反面、先の見えない事も多く、悲しい事に自殺される方もおられるのが現実です。建物や道路、ライフラインの復旧ももちろん大事なことですが、被災された方々の心の復興が本当の意味での復興だと思います。

「被災地は、5年10年と復興に時間がかかります。その事を伝えてくれるだけでいいんです」と、高田病院の副院長に言われました。私にできる事…被災地での出来事を風化させることなく、体験の1つひとつを伝え、被災地の1日も



出発前に。左から、今町看護師、中山医事課長補佐、荒坂診療所の平谷先生、杉山看護師



活動報告会(5月30日)

東日本大震災支援活動報告

早い復興と幸福を祈っていきたいと思います。

私たちの住む紀伊半島も、東南海地震が起きた際、最も被害を受ける地域です。今回の被災地支援で得た経験を生かして、地震や津波だけでなく、台風やゲリラ豪雨も含め、今、見直すべき所を見直し、災害対策に対して「知らない」と言う人がいないよう、地域・職場に浸透させ、災害に強い町づくりを目指していきたいと思います。

医事課長補佐：中山元

「今回の東日本大震災医療派遣に参加できたことは、自分の成長になった気がします。仕事がある、仕事が出来る有り難さを、まさに実感しました。全国からの派遣の方々と、「助け合い・いたわり合い」の気持ちで、心が一つになれたことに幸せを感じました。」

医事課長補佐：中山元

「今回の東日本大震災医療派遣に参加できたことは、自分の成長になった気がします。仕事がある、仕事が出来る有り難さを、まさに実感しました。全国からの派遣の方々と、「助け合い・いたわり合い」の気持ちで、心が一つになれたことに幸せを感じました。」



内科医長：中前範子

4月に2度、被災地での支援活動に参加してまいりましたので、ご報告いたします。

1. 東日本大震災支援プロジェクト(Primary Care For All Team:PCAT) (4月14日～4月21日(実働期間：4月16日～4月19日))

日本プライマリ・ケア連合学会が震災直後に発足させた支援活動です。当初から長期的な支援を行うことを宣言しており、医師だけでなく、多職種の医療従事者で構成されているのが特徴です。現在も、気仙沼、石巻、福島を拠点に活動中です。私は石巻で、福祉避難所の立ち上げと医学的管理を主な任務として活動しました。

福祉避難所とは、介護を必要とする方とその主介護者を対象とした避難所です。糖尿病でインスリン注射を行っている方や、慢性腎不全で血液透析を行っている方、足腰が弱く車椅子を利用する必要のある方、床ずれで処置の必要な方などが入所されていました。一般の避難所よりも通路が広く確保されており、車椅子の方もトイレを安心して利用できる環境でした。リハビリのスタッフも支援に入っており、通路を利用して、リハビリも行われていました。食事は、栄養士の支援を受けていましたが、ようやくバランスのよい食事が整いつつある頃で、まだ個別の病気に対応した食事が提供できるまでには至っていませんでした。

高齢者の多い当地方で震災が起こった場合、福祉避難所が数多く必要になるのではないかと思います。長期的な避難生活に備えた、広い避難場所の確保も検討が必要です。災害時にはトイレを確保し、清潔に保つことが重要です。足腰の弱い方が安心して使えるトイレを準備しておく必要があります。

2. RHITE プロジェクト（健康支援調査）(4月29日～5月1日 (実働期間4月30日))

避難所を対象とした、健康診断のような活動です。南三陸町の一番大きな避難所で、ボランティア調査員として活動しました。津波に対する意識がもともと高い地域であることが、避難されていた住民の方とのお話を通じて理解できました。住民の方は地区ごとに分かれて避難生活を送っていました、若い被災者の方たちは自らもボランティアとして食事の準備などに積極的にかかわっていました。つらい中、目に涙をうかべながらも、津波すら冗談にして笑い飛ばしながら、一生懸命に前を向いて歩んでゆこうとされている被災者の方々、たくましく地元の医療のために奔走されている被災地の医療者の方に、元気をいただきました。

東日本大震災支援活動報告

【支援活動を通じて ~皆さんへのメッセージ~】

支援活動を通じて思ったことは、自分の身は自分で守る、自分たちの地域は自分たちで守るという意識の大切さでした。そして、そこにいる人達で、手に入る限られた資源を上手に使って、最善を尽くすことの大切さでした。これらのことは、当地方の厳しい医療事情を今度立て直してゆく上でも、同じように大切な考えであると感じました。

みなさん、避難所の確認、避難経路の確認はされましたか？最低限の防災グッズは準備されていますか？普段ご自分がどんな病気でどんなお薬を処方されているか、理解されていますか？お薬の飲み方の注意点、食事の注意点はきちんと理解し、実践されていますか？

普段から適度な運動を心がけていらっしゃいますか？歯磨き、入れ歯のお手入れは、普段からしっかりと実践できていますか？ご近所付き合いは、大切にされていますか？こういった当たり前のことを、毎日きちんと実践していただくことが、災害時にも、とても大切です。

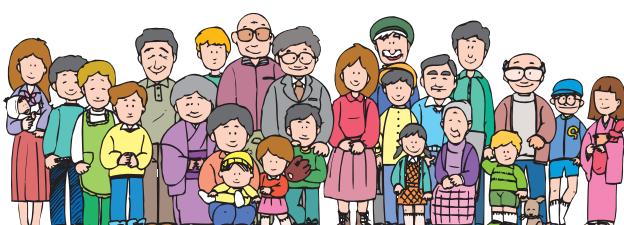
紀南病院の医師として、みなさんにお願いしなければならないことは、紀南病院が果たすべき役割について、当地方の医療のあり方について、もう一度一緒に考え直していただきたい、ということです。当院の急性期病棟には、病気が治っても自宅へ帰れない方がたくさん入院されています。退院できれば、もっと生き生きとその方らしい人生を送っていただけるはずですが、社会的な理由で入院生活を続けなければならないために、逆に元気を奪ってしまっている現状があります。介護施設や療養病院も満床で、すぐには入れません。在宅医療が充実していないことも、一つには問題であると思います。当地方には、自宅で介護をうけられない方が安心して生活できる場所があまりにも少ないので。このような現状で災害が起った場合、当院は、重症な方を十分に受け入れ、治療に当たることができるでしょうか。安定した方を受け入れる場所がほかになければ、重症な方を病院に受け入れ、十分にその方たちの診療に十分な力を注いでゆくことはできません。

紀南地方がいすれやってくる震災に備え、災害に強い地域になるためには、現在の厳しい医療事情の中で、今ここにある医療資源をいかにうまく活用してゆけるか、ということにもかかっていると思います。私たちは、医療崩壊が呼ばれるようになってから今まで、何とか今まで通りの医療の形を守ろう、と努力してきました。しかし、そろそろ、限界にきていると、現場の最前線で働いている医師として感じています。紀南病院が果たすべき役割、地域が担うべき役割を、もう一度みなで考え直し、よりよい医療の形を考え、行動してゆくべき時なのではないでしょうか。

もともと当地方と同じく医療資源が十分でなかった被災地の医療については、復旧ではなく、復興が必要である、と考えています。以前と同じ状況に戻るだけではだめなのです。本当の意味で支援が必要ではなくなる日が来るなどを、心から願っています。被災地では、地元医療者と支援者が連携しながら、医療をどう再生してゆくのかが、検討されています。今後、被災地の復興が、他の医療崩壊で苦しむ地域の医療が再生するためのヒントを与えてくれるのかもしれません。

医療を動かすには、医療者だけでなく、住民のみなさんの力が重要です。みなさんは住民として、

どのような医療をこの地域で築いてゆきたいと思われますか？そのために、みなさんができることは何でしょうか？ぜひ、自らの問題として、一緒に考え、行動してください。それが、災害に強い地域を作ることにつながると信じています。



私の趣味

皮膚科 嶋 聰子

私には「これが趣味です」と胸を張って言えるようなものはありません。本業以外に、何かを少しかじっては長続きしなかったという現実、つまりは熱しやすく冷めやすい性格の結果かなと 思います。

そこで、わたしの興味以上趣味未満=「チ趣味」についてあれこれ思い巡らせてみました。

◎読書について

非常にありきたりな感は否めませんが、ほぼ毎日続いていることのひとつです。高校生までは日本史が大好きで、今で言う「歴女」だったのかなと思いますが中年となり余り興味は湧かなくなりました。なぜかしら。ジャンルを問わず、手当たり次第に読むタイプです。最近は、イシグロカズオ、司馬遼太郎、島田晴雄などを読みました。



◎語学について

語学というと、エライ高尚な学者風に聞こえますが得意な言語はありません。ただ、いろんな国の言葉を見たり、聞いたりするのが好きなので（旅行気分！）それこそNHKラジオ講座でフランス語、スペイン語、アラビア語等テキストを買っては最初の1ヶ月だけ聴いて終わりでした。唯一、半年間聴けたのはスペイン語ですが、日本に住み一言も発しないうちに忘れました。

最近、語学を覚えると脳の老化予防になると読んだので（これは事実らしいですよ！）、また英語をボチボチやってみようかなという気分になっています。英語の朗読CDなどは容易に購入できるので、有名なお話（「秘密の花園」など）を車に乗りながら聴いています。スラスラと原書で楽しむ日を迎えることが当面の目標です。

◎音楽について

小さい頃からピアノを習いましたが、サボってばかりの記憶しかありません。ずっと憧っていたバイオリンを専門医に合格してから習い始めました。アラフォーの手習いです。相変わらず日々の練習はサボっていますが、せめて毎週のレッスンだけは行かせて頂いております。現在、バッハのメヌエットでもたもたし、フリーズしかけています。でも、目標は大きく？60歳になつたら還暦コンサートを開くことが夢です。20年以上先ですが、できればお越しくださいませ。

◎掃除について

これが趣味の部類に入るかは甚だ疑問ですが……生来、運動神経が鈍いのですと体育の授業などは苦痛でした。大学時代にはテニス部に入りましたがボール拾いで終わりました。ですが、掃除は割と好きで毎日家の拭き掃除など楽しんでやっています。これは小さい子供がいるので散らかるというのも一因でしょうが、いろんなところを磨いたり、またカバンの中を整理したりするのが訳もなく好きです。今日は気分が乗らないなあという日は、まずは雑用、特に机の引き出しや本棚の整理をするとなにかノってくる感じがします。カビキラーなどの新品が家にはストックされていて、洗濯機の掃除をしたり、お風呂を磨いたりするとストレス発散になります。でも、自分の気になるところだけを掃除するので、松居一代さんなどがいたらダメ出しぶかりだと思います。



以上、列挙してみましたがいかに自分が平凡な人間かを感じました。しかし平凡な暮らしこそ幸せと思って、今日もどこかをゴシゴシしたいと思います。



紀南病院外来診療担当表

平成 23 年 7 月 1 日現在

区 分	月	火	水	木	金
内 科	1 診(初診) 2 診(再診) 3 診(再診) 4 診(再診)	小林 文人医長 野口正満医師(第1・3・5週) 磯部亮太医師(第2・4週)	中前 範子医長	小林 文人医長	奥野正孝内科総括
		中前 範子医長			
		西久保公映副院長	西久保公映副院長	西久保公映副院長	西久保公映副院長
		小林 文人医長	小林 文人医長	小林 文人医長	
				尾辻典子医師(第1・第3)	
				糖尿病指導	
					・糖尿病専門外来(月1回) ・住田 安弘医師 ・肝臓病専門外来(月2回) ・三重大学医師 ・循環器専門外来(月1回) ・山門 徹医師
外 科	1 診	乳腺専門外来(第1月曜日) 小川 朋子医師	須崎 真院長		須崎 真院長
	2 診	大倉 康生医長	大倉 康生医長	伊藤 貴洋医師	伊藤 貴洋医師
整 形 外 科	再 診	中空 繁登医長	中空 繁登医長	濱口 貴彦医師	濱口 貴彦医師
	初 診	濱口 貴彦医師		中空 繁登医長	中空 繁登医長
脳神経外科	2 診	仲尾 貢二医長	仲尾 貢二医長	仲尾 貢二医長	脳ドック専門外来 仲尾 貢二医長
眼 科	1 診	久保 朗子医長 (第1・第3・第5休診)	久保 朗子医長	久保 朗子医長	久保 朗子医長
産 婦 人 科	1 診	紀平 知久医長	前沢 忠志医師	紀平 知久医長	前沢 忠志医師
	2 診	前沢 忠志医師	紀平 知久医長	前沢 忠志医師	紀平 知久医長
小 児 科	1 診	間宮 範人医長	間宮 範人医長	間宮 範人医長	間宮 範人医長
皮 膚 科	1 診	嶋 聰子医長			嶋 聰子医長
神 経 内 科	1 診			畠中 良夫医師 午前:ドック診療のみ 午後:神経内科診療	成田 有吾医師 木田 博隆医師 谷口 彰医師 松浦 慶太医師 もの忘れ外来(月1回) 佐藤 正之医師
泌 尿 器 科	1 診			加藤 学医師	月1回不定期 岩本 陽一医師
耳 鼻 咽 喉 科	1 診				
歯科口腔外科	1 診	平本 憲一医長	平本 憲一医長	平本 憲一医長	平本 憲一医長
備 考	※ 受付時間は午前 7 時 30 分～午前 11 時 30 分までとなっております。ただし、急患については時間外でも受付します。なお、当院を初めて受診される患者様及び、診察券をお持ちでない患者様の受付時間は、午前 8 時からとなります。 * 整形外科・皮膚科の受付時間は午前 7 時 30 分～午前 11 時までとなります。 * 神経内科の診療は、現在 新規の患者様の受け入れが困難な状況です。内科・脳神経外科等へご相談下さい。 * 眼科は、第 1・第 3・第 5 月曜日は休診となります。 * 泌尿器科の受診希望される方は、かかりつけ医からの紹介予約が必要になります。かかりつけ医にご相談下さい。				

着任先生紹介



外科医師 伊藤 貴洋 先生
(7月1日着任)

- 前任地 済生会松阪総合病院
- 趣味 旅行、テレビ鑑賞、
- 医師を志した理由 幼い頃、病院に通うことが多く、Dr の姿にあこがれていたため。
- 抱負 地域の皆様のお役に立てるようがんばります。よろしくお願いします

「なごみの会」を開催



6月12日がん患者の「和みの会」が開催されました。第1部は当院コーラス部の指導者の山路信夫先生に伴奏をしていただき、みんながよく知っている童謡などを全員でコーラスしました。今回は演奏を聞くだけでなく参加型の内容となりました。第2部のお話タイムも時間を忘れるくらい話に花が咲き、帰るときにはみなさんすっきりした表情でした。

「和みの会」が設立され2年が過ぎましたが、これからもこの紀南地域で、患者さん、家族、医療従事者が一緒になって歩んでいきたいと思っています。まだ参加されたことのない方は、次回10月15日の「阿田和のハイ行こう!」にぜひ一度ご参加ください。詳細は看護部長(宮向井)までお問い合わせください。

看護部による他病院見学報告会

看護部では、現状を少しでも改善しようと『コアチーム』を一年前に立ち上げ、メンバーは学習、討議、他病院見学を通して、「何をすればいいのか」を模索してきました。5月12日(木)(看護の日)には、全職員向けの報告会を開催し、他病院(新宮市立医療センター、済生会松阪総合病院)への見学を通して、自分達の現状を見直し、より良い方向に向かいたいとまとめたものを、発表しました。